

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>
夢に向かって

～生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を～

第7号

令和5年11月1日発行
さいたま市立土屋中学校
さいたま市西区土屋1766-1
TEL 048-622-4611
✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

勝利主義と勝利至上主義

～勝ってありがとう、負けてありがとうの精神で！～

校長 澤田純一

先月は移動の多い月となりました。新人戦、県大会、駅伝大会、吹奏楽全国大会と各会場を周りました。その距離1,000kmを超えました。普段はバイクでの移動を基本としていますが荷物があるときや悪天候時などはクルマでの移動となります。ハンドルを握りながら断片的ではありますが顧問や選手のことを考えながらの走行は、一人の時間を充実させてくれます。もちろん毎日のルーティンワークであるプルートとの散歩も私の思考を整える唯一無二の充実した時間ではありますが(笑)。私が何を考えているか知る由もなくしっぽを振りながら行きたい方向へと歩いて行きます。移動が多かった月ですが私もプルートも元気です。

さて、新人戦、駅伝大会、吹奏楽全国大会に行きながら「勝負」ということを改めて考えてみました。様々な意見や考え方がありますがこれからお話することは私の考えです。スポーツ、コンクールには勝敗がつきます。結果、勝者と敗者が生まれることが必然ですね。なおかつ、最後まで勝ち抜き勝者になる者は一人(1チーム)だけです。したがってほとんどの人が負けることとなります。思い起こせば私も試合、試験などよく負けましたね。トータルで勝ったことは3割くらいでしょうか。7割は負けていましたね。しかし、いつでも勝つことに全力を尽くすことはしていました。そして、こだわりがあります。それは、正々堂々と勝つことです。これを勝利主義といいます。もう一方で勝てば何をしてもいい。勝ちさえすればなんでも許される。これを勝利至上主義といいます。具体的にはルールは無視、マナーは最低、これでは困ったものです。純粋に勝つために努力をするのですよ。常に人としての尊厳を失わないようにする。他者と協力する。他者を思いやる。他者に感謝する。そのような在り方を勝利主義というのです。よって勝利主義と勝利至上主義とは全く異なるのです。

私は小2より剣道を習っています。様々なことを学びました。勝った時は「相手も努力し試合に臨んだ。たまたま私が勝っただけ。そもそも相手がいなければ私の勝利はないのだから。」と相手に対し試合をしてくれてありがとうとリスペクトの気持ちをもつようにしました。また、負けた時は「まだまだ努力が足りない。」と相手が気づかせてくれたと考えました。一言で表せば「勝ってありがとう、負けてありがとう」という精神です。ということで、試合やコンテストは勝者を決めるだけでなく参加者全員に人間的成長を促すためにあるのですね。

最後に、校長としても勝負にこだわりがあります。「生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を」の理念のもと皆さんが夢の抱ける日本一の学校を創造していくことです。校長(教員)は喜怒哀楽を表現していい職であると思っています。皆さんとともに喜び笑い、時に悲しみ、人間教育としての土屋道場を運営して行く覚悟ですのでよろしく願います。

今日の話はこれでおしまい。朝晩は冷えてきました。健康に留意し過ごしてください。

また来月、元気に会いましょうね！

 ブーン